

# 関西学院大学 研究成果報告

2023年 11月 30日

関西学院大学 学長殿

所属： 法学部  
職名： 教授  
氏名： 小笠原亜衣

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input type="checkbox"/> 特別研究期間 <input checked="" type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	砂漠と精神
研究実施場所	自宅、大学研究室、およびイスラエル
研究期間	2023年 4月 1日 ～ 2023年 9月 日（約6ヶ月）

## ◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

春学期は「自由研究員」の身分をいただき、本来の研究とは無関係に関心あるテーマを追求できるという研究者としては大変有り難い時間をいただいた。これまで専門として行ってきた近代研究は個別の作家・画家、小さな文化圏・芸術圏に絞ってきたため、この機会により大きな展望で近代の精神性を考察したいとの意図から、研究テーマを「砂漠と精神」と題した。砂漠という風土・気候が想像力・創造力に与える影響を文化・芸術を通して考察し、そこから近代の精神性と呼べるものを抽出できるのではと考えた。

そもそもこの研究の着想は、昨年論文としてまとめた近代米画家ジョージア・オキーフに関連して浮かび上がったものだった。オキーフが砂漠という画題にこだわり生活の拠点を移してまで絵画作品を生み出し続けたこと、砂漠という場所の感覚あるいは過酷な気候が与える精神性を生活と絵画を通して表現し続けたことから、砂漠という風土・気候が人間精神に与える影響に強い関心をもった。また、オキーフ論文を通して再確認したのは砂漠と宗教の結びつきでもあった。オキーフはカソリックの教育を受けたが、聖書での砂漠の表象がオキーフ作品の砂漠の表現に影響を与えていることから、改めて砂漠＝荒野（あらの）の精神性とでも呼べるものへ関心が生まれた。世界三大宗教は砂漠気候の風土から生まれたことから鑑みても、

また聖書にちらばる多くの砂漠表象から考えても、砂漠を考えることが人間精神の一端を明らかにし、ひいては近代の何らかの特質を明らかにすると考えたのだ。

しかし、やはり宗教学を専門とするわけでも宗教美術を専門とするわけでもないことから、本研究は半年でオリジナリティのあるアウトプットを最終的に出せるほどの道筋を見いだすことに大変難航した。やがて三大宗教を生み出した砂漠地帯に建国されたイスラエルおよび「ユダヤ性」に焦点が絞られていき、ユダヤ性を流浪というよりコスモポリタニズムととらえる近年のユダヤ研究の流れから、本来の自身の研究である近代パリにおけるコスモポリタニズムの考察に結果的に接続した。

パリ・モダニズムにおけるコスモポリタニズムについては豊富な先行研究があるが、それをユダヤ性との関連から論じる研究は多くない。この観点を追求するため、ユダヤ性への見識をもつ近代（文学）研究者との意見交換を必要としていたが、面識のない研究者にメール経由で研究企画をもちこんでも無視されるだけなので、学会の同僚である筑波大学のNg Lay Sion先生にご相談した。Ng Lay Sion先生は当時Tel Aviv Universityの客員研究員で（2023年10月、戦争勃発直後まで）、イスラエルに滞在していたからだ。Lay Sion先生にご紹介の労をおとりいただき、イスラエルを代表するモダニズム研究者であるテルアビブ大学Miriam Mandel名誉教授、およびエルサレム大学Ruben Borg教授と「砂漠、コスモポリタニズム、パリ1920年代」について意見交換を行う機会を9月に得ることができた。お二人はみずからもユダヤ系でイスラエル移住者であり、当該テーマを深めるには最適の共同研究者である。特にMandel先生とはテルアビブ美術館で近代彫刻家の展示と一緒に鑑賞する機会もいただけた。それぞれ短い時間ではあったが、こちらの研究意図を説明させていただき、今後共同研究を続けることを口頭で確認できた。

その後一ヶ月ほどで戦争が勃発し、お二人にメールを差し上げたが、残念ながらどちらからも現時点でご返信はない。このように政治情勢が一気に変わることは想定外であった。上述の共同研究も今後どうなるかはいまのところ不明である。Mandel先生とは2024年にスペインで行われる国際学会で直接再会することを約束して別れたが、それもどうなるか分からない。

Miriam Mandel先生・Ruben Borg先生をご訪問する前の7月-8月に、「砂漠と精神」に沿う内容で講演原稿や国際学会発表原稿を執筆した。2024年4月に日本アメリカ文学会東北支部において講演をする機会をいただいているが（於 東北大学）、その際の講演タイトルを「近代における精神の砂漠化——ヘミングウェイ、1920年代パリ、コスモポリタニズム」と題した。人間精神の疎外が起こった近代の「精神の砂漠化」を、主に米作家ヘミングウェイ作品から読み解く内容である。本講演ではユダヤ性をパリ・コスモポリタニズムと関連づける試みも、パリ・モダニズムの主要メンバー、近代米作家ジュナ・バーンズの作品を通して行う。2024年7月にスペインで行われる米国Hemingway Society主催の国際学会へ応募し受理されたので、研究発表を行う。発表タイトルは“The Poetics of Light: Hemingway’s Short Stories and Hopper’s *Nighthawks*”である。砂漠気候の強烈な「光」は神の恩寵を連想させたが、光が強ければ強いほどそれがつくる影（闇）も濃くなる。本発表では強烈な光を描くことで精神の闇、人間の内奥に広がる暗い砂漠を描いた二人の芸術家の光の表象を比較する。同様の議論で文学（芸術）作品における「光」を考察する論文を、2024年発行予定の米学会Hemingway Society編集・発行予定の共著論文集*The Routledge Companion to Ernest Hemingway*に応募し受理された。（論文タイトル（仮）“The Poetics of Light on Hemingway’s Works”）

昨年度、日本アメリカ文学会賞を受賞することができた拙著『アヴァンギャルド・ヘミングウェイ』も現在英語に翻訳中であり、その中の第五章および第六章で本

自由研究で得た考察を加筆している。この英語版著書 *Avant-Garde Hemingway* は2024年度中に出版社を探し、2025年中に出版したいと希望している。

最後になるが、自由研究員という貴重な機会をくださった関西学院大学に心より感謝申し上げます。この機会を無駄にすることなく、引き続き研究活動に専心して参ります。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。